HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	ウズベク語における小詞=chiの機能
Author(s)	日髙, 晋介
Citation	北方言語研究, 13, 17-37
Issue Date	2023-03-20
DOI	https://doi.org/10.14943/106648
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/89075
Type	departmental bulletin paper
File Information	02_Hidaka.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

北方言語研究 13: 17-37（日本北方言語学会 2023）

ウズベク語における小詞 *=chi* の機能

日髙　晋介
（日本学術振興会特別研究員 PD／新潟大学）

キーワード：チュルク諸語、ウズベク語、前提、小詞

0. はじめに

ウズベク語 (チュルク諸語、南東語群) の小詞 *=chi* について、先行研究では、*=chi* が命令形に付く場合、「命令」(Abdurahmonov et al. 1975: 576)、「脅し」(Abdurahmonov et al. 1975: 576, Bodrogligeti 2003: 1026)、「促し」(Kononov 1960: 334, Bodrogligeti 2003: 1026)、「依頼」(Abdurahmonov et al. 1975: 576)、「願望」(Abdurahmonov et al. 1975: 576) を表し、*=chi* が条件形に付く場合、「切迫した要求」(Abdurahmonov et al. 1975: 576)、「依頼」(Abdurahmonov et al. 975: 576)、「強い命令」(Kononov 1960: 334, Bodrogligeti 2003: 1026)、「話者の意図」(Abdurahmonov et al. 1975: 576, Bodrogligeti 2003: 1026-1027) を表し、左記以外に「疑問」(Kononov 1960: 334, Sjoberg 1963: 67, Abdurahmonov et al. 1975: 576, Bodrogligeti 2003: 1026)、「強調、説明」(Abdurahmonov et al. 1975: 576) も表すという。しかし、先行研究におけるこの小詞の記述には下記の 3 つの問題がある: 1. 先行研究における *=chi* を含む例では *=chi* なしでも「命令」や「脅し」を表すことができること、2.「強調、説明」の例では、*=chi* が何を強調しているのかが不明であること、3. Yes/No 疑問で用いられる小詞 *=mi* との違いが不明であることである。これら 3 つの問題は、先行研究が発話の文脈や状況を考慮していないために生じるものである。まず、本稿では、発話の文脈や状況を考慮できるように、コーパスを用いて前後の文脈を考慮しながら分析を行う。分析の結果、当該の発話文が先行文脈と照応関係になければ、*=chi* が使えないという仮説を立てた。さらに、その仮説を検証するために、インフォーマント調査を行い、*=chi* は、前提との関係を標示しているということを明らかにする。これにより、先行研究で指摘されている多くの用法を統一的に説明することが可能となる。

本稿の構成は、次の通りである。1 節で先行研究による記述と例を整理し、2 節で問題提起を行う。3 節で調査の結果を示し、4 節で考察を行い、結論を述べる。なお、本稿における例文番号・グロス・日本語訳・下線などの文字飾りはすべて筆者によるものであり、例文中の *=chi* には =CHI とグロスを付す。

1. 先行研究による記述の整理

本節では、先行研究の記述を、前接要素の形態的特徴と *=chi* の統語的位置で整理して分類し直し、分類項目ごとに例を挙げる。

=chi が表す意味による分類は、先行研究ごとに大きく異なっているが、下記の表 1 に挙げるように、前接要素の形態的特徴と、*=chi* の統語的位置で整理すると、4 つに分類できる。*=chi* の統語的位置は、先行研究で挙げられた用例から判断した。Sjoberg (1963: 67) では、形態的特徴が一切述べられていないため、表 1 には挙げていない。本稿の指す「文末」

とは、述語に人称が標示される場合には人称を表す要素の後ろの位置を指し、文の要素が名詞句のみあるいは条件節のみの場合、その末尾の位置を指す。

表 1: 先行研究による=*chi* の意味、前接要素の形態的特徴、統語的位置

先行研究による意味			前接要素の形態的特徴	=*chi* の統語的位置
①	命令	Abdurahmonov et al. (1975: 576)	命令形	文末
	脅し	Abdurahmonov et al. (1975: 576) Bodrogligeti (2003: 1026)		
	促し	Kononov (1960: 334) Bodrogligeti (2003: 1026)		
	依頼	Abdurahmonov et al. (1975: 576)		
	願望	Abdurahmonov et al. (1975: 576)		
②	切迫した要求	Abdurahmonov et al. (1975: 576)	条件形	文末
	依頼	Abdurahmonov et al. (1975: 576)		
	強い命令	Kononov (1960: 334) Bodrogligeti (2003: 1026)		
	話者の意図	Abdurahmonov et al. (1975: 576) Bodrogligeti (2003: 1026-1027)		
③	疑問	Kononov (1960: 334) Abdurahmonov et al. (1975: 576) Bodrogligeti (2003: 1026)	記述なし	文末
④	強調、説明	Abdurahmonov et al. (1975: 576)	記述なし	文中

表 1 の 4 つの分類項目ごとに例を挙げる。

① =*chi* が「命令」((1); Abdurahmonov et al. 1975: 576)、「脅し」((2); Abdurahmonov et al. 1975: 576, Bodrogligeti 2003: 1026; 風間 2018 の言う「反語命令」に相当する。詳しくは 2 節と脚注 8 で詳述する)、「促し」((3); Kononov 1960: 334, Bodrogligeti 2003: 1026)、「依頼」((4); Abdurahmonov et al. 1975: 576)、「願望」((5); Abdurahmonov et al. 1975: 576) を表す場合、=*chi* の前接要素は命令形を取り、=*chi* は文末に位置する[1]。

(1) *Qani, o'qi=**chi**.*
where read.IMP.2SG=CHI
「ほら、読んでよ。」(Abdurahmonov et al. 1975: 576)

(2) *kel-ib ko'r=**chi**, yon-im-ga.*
come-CVB.SEQ see.IMP.2SG=CHI side-1SG.POSS-DAT
「来てみろ、私の側に。」(Abdurahmonov et al. 1975: 576)

[1] (2) と (5) は、述語のあとに名詞句が続いている。このような場合、本稿では、倒置が起きていると解釈する。

(3) *Xo‘sh, endi, ayt-ing=**chi**, ko‘cha-dan nega bezovta kir-di-ngiz?*
well now say-IMP.2PL[2]=CHI street-ABL why disturbed enter-PAST-2PL
「さあ、今話してください、通りからなぜ (そんなに) 混乱した状態で入ってきたのですか？」(Bodrogligeti 2003: 1026)

(4) *Qalam-ing-ni ber-ib tur=**chi**.*
pencil-2SG.POSS give-CVB.SEQ stand.IMP.2SG =CHI
「鉛筆を貸してよ。」(Abdurahmonov et al. 1975: 576)

(5) *avval bu kitob-ni o‘qi-b chiq-ay=**chi**, nima-lar*
before this book-ACC read-CVB.SEQ go.out-IMP.1SG=CHI what-PL
yoz-il-gan ekan.
write-PASS-PTCP.PAST EVID
「先に、この本を読み切ろう、何が書かれているのだろう。」
(Abdurahmonov et al. 1975: 576)

② *=chi* が「切迫した要求」((6); Abdurahmonov et al. 1975: 576)、「依頼」((7); Abdurahmonov et al. 1975: 576)、「強い命令」((8); Kononov 1960: 334, Bodrogligeti 2003: 1026)、「話者の意図」((9); Abdurahmonov et al. 1975: 576, Bodrogligeti 2003: 1026-1027) を表す場合、前接要素は条件形を取り、*=chi* は文末に位置する。「切迫した要求」(6)、「依頼」(7)、「強い命令」(8) を表す場合、前接要素は二人称条件形を取る。

(6) *tez yur-sa-ng=**chi**.*
quickly move-COND-2SG=CHI
「早く動いてください。」(Abdurahmonov et al. 1975: 576)

(7) *bizniki-ga bir kel-sa-ng=**chi***
our.home-DAT one come-COND-2SG=CHI
「私のところに一度来てくださいよ。」(Abdurahmonov et al. 1975: 576)

(8) *Yoz-sa-ngiz=**chi!***
write-COND-2PL=CHI
「書いてください！」(Kononov 1960: 334)

「話者の意図」(9) を表す場合、前接要素は一人称条件形を取る。

[2] 二人称複数を表す代名詞 *siz*、所属人称接辞 *-(i)ngiz*、述語人称語尾 *=siz*, *-ngiz* は、単数の聞き手に対する敬称としても機能する。

(9) *Yaxshi-si, kitob o‘qi-sa-m=**chi**.*
good-3.POSS book read-COND-1SG=CHI
「良いことである、私が本を読むなら。」(Bodrogligeti 2003: 1027)

③ *=chi* が「疑問」((10), (11); Kononov 1960: 334, Abdurahmonov et al. 1975: 576, Bodrogligeti 2003: 1026) を表す場合、前接要素の形態的特徴に関する記述はなく、*=chi* は文末に位置する。(10) では三人称条件形に*=chi* が付き、(11) では与格名詞句に*=chi* が付いている。

(10) *Jamol qayt-sa-ø, baxt-ing qayt-ma-sa-ø=**chi**?*
beauty return-COND-3 hapiness-2SG.POSS return-NEG-COND-3=CHI
「美しさが戻るとして、君の幸せが戻らないなら？」(Abdurahmonov et al. 1975: 576)

(11) *Endi orqa-ga yo‘l yo‘q. Oldin-ga=**chi**?*
now back-DAT way no front-DAT=CHI
「もう後ろには道がない。前には？」(Abdurahmonov et al. 1975: 576)

④ *=chi* が「強調、説明」((12), (13); Abdurahmonov et al. 1975: 576) を表す場合、前接要素の形態的特徴に関する記述はなく、*=chi* は文中に位置する。Abdurahmonov et al. (1975: 576) には、「強調」という用語に関する意味的な定義は一切ない。

(12) *Azimjon=**chi**, sen-ga ammavachcha bo‘l-a=di.*
PN=CHI 2SG-DAT cousin be-NPST=3
「アジムジョンは、君に対してのいとこになる。」(Abdurahmonov et al. 1975: 576)

(13) *Men shu uzun-dan+uzoq umr-im-da=**chi**, bola-m, hech qachon*
1SG that long-ABL+distance life-1SG.POSS-LOC=CHI child-1SG.POSS no when
bun-day ojiz, bun-day ayanch hol-ga tush-gan emas=di-m.
this-like weak this-like pitiful state-DAT fall-PTCP.PAST NEG=PAST-1SG
「私は、このとても長い人生では、子よ、決してこのように弱った、このように哀れな状態に陥らなかった。」(Abdurahmonov et al. 1975: 576)

2. 問題提起

前節では、先行研究による*=chi* の記述を概観した。先に表 1 に挙げたように、*=chi* は前接要素の形態的特徴と*=chi* の統語的位置で整理すると、4 つに分類できる。

表 1 (再掲): 先行研究による=*chi* の意味、前接要素の形態的特徴、統語的位置

先行研究による意味			前接要素の形態的特徴	=*chi* の統語的位置
①	命令	Abdurahmonov et al. (1975: 576)	命令形	文末
	脅し	Abdurahmonov et al. (1975: 576) Bodrogligeti (2003: 1026)		
	促し	Kononov (1960: 334) Bodrogligeti (2003: 1026)		
	依頼	Abdurahmonov et al. (1975: 576)		
	願望	Abdurahmonov et al. (1975: 576)		
②	切迫した要求	Abdurahmonov et al. (1975: 576)	条件形	文末
	依頼	Abdurahmonov et al. (1975: 576)		
	強い命令	Kononov (1960: 334) Bodrogligeti (2003: 1026)		
	話者の意図	Abdurahmonov et al. (1975: 576) Bodrogligeti (2003: 1026-1027)		
③	疑問	Kononov (1960: 334) Abdurahmonov et al. (1975: 576) Bodrogligeti (2003: 1026)	記述なし	文末
④	強調、説明	Abdurahmonov et al. (1975: 576)	記述なし	文中

本稿では、上記の機能を=*chi* 自体が担うとする分析には再考の余地があると考える。その理由としては、次の 3 点が挙げられる: 1. ①「命令」「脅し」「促し」「依頼」と、②「願望」「切迫した要求」「依頼」「強い命令」「話者の意図」で挙げられた =*chi* を含む例では、=*chi* なしでも当該の意味を表すことができること、2. ③「疑問」を表す場合、Yes/No 疑問で用いられる小詞 =*mi* との違いが不明であること、3. ④「強調、説明」の例では、=*chi* が何を強調しているのかが不明であること。これ以降、表 1 中の ①から④それぞれについて、先行研究による記述について問題点を述べる。

①の「命令」「脅し」「促し」「依頼」「願望」において、命令形が用いられるとされているが、これらは=*chi* を用いずとも命令形だけで表すことができる。下記の (14) から (15) の例は、(1) ~ (5) の =*chi* を抜いた例である。各例とそれに対応する意味は、母語話者による容認度の確認を経ている。

(14) *Qani, o‘qi.*
where read.IMP.2SG
「ほら、読んでよ。」(cf. (1))

(15) *kel-ib ko‘r, yon-im-ga.*
come-CVB.SEQ see.IMP.2SG side-1SG.POSS-DAT
「来てみろ、私の側に。」(cf. (2))

(16) *Xo‘sh, endi, ayt-ing, ko‘cha-dan nega bezovta kir-di-ngiz?*
well now say-IMP.2PL street-ABL why disturbed enter-PAST-2PL
「さあ、今話してください、通りからなぜ (そんなに) 混乱した状態で入ってきたのですか？」(cf. (3))

(17) *Qalam-ing-ni ber-ib tur.*
pencil-2SG.POSS give-CVB.SEQ stand.IMP.2SG
「鉛筆を貸してよ。」(cf. (4))

(18) *avval bu kitob-ni o‘qi-b chiq-ay, nima-lar*
before this book-ACC read-CVB.SEQ go.out-IMP.1SG what-PL
yoz-il-gan ekan.
write-PASS-PTCP.PAST EVID
「先に、この本を読み切ろう、何が書かれているのだろう。」(cf. (5))

「脅し」について補足を述べる。風間 (2018: 6, 8–9) では、ウズベク語では、反語命令 (本節でいう「脅し」に相当) を表す次のような形式を含む例が挙げられている: 1. 補助動詞 *ko‘r-*「見る」の二人称命令形 (19)、2. 二人称命令形の反復 (20)、3. 補助動詞 *ber-*「与える」の二人称命令形 (21)[3]、4. 三人称命令形 (23)[4]。4. の (22) は、風間 (2018: 6) による Nasilov et. al (2001: 218) からの引用であるが、*=chi* の意味については風間 (2018: 6) と Nasilov et. al (2001: 218) の両者に言及はない。母語話者に確認したところ、一人称主語の反語命令はウズベク語では用いられないという。

(19) *Bu bola-ni masxara qil-ib ko‘r, (kechir-ma-y=man!)*
this child-ACC ridicule do-CVB.SEQ see.IMP.2SG allow-NEG-NPST=1SG
「この子をいじめてみろ (、許さないぞ！)」(風間 2018: 8)

(20) *Alda!, alda!*
deceive.IMP.2SG deceive.IMP.2SG
「うそをつけ！」(風間 2018: 8)

(21) *Aldo‘r-ing.* (*Alda-y ber-ing* の縮約形)
deceive-CVB.CNT give-IMP.2PL
「うそをつかないでください (lit. うそをついてあげてください)。」(風間 2018: 9)

[3] 風間 (2018: 9)によれば、(21) は、目上の人に対して用いるという。
[4] 風間 (2018) は、アルタイ型言語 (ウズベク語、モンゴル語、ソロン語、朝鮮語、日本語) において反語命令が可能かどうかという問題に焦点を当てた研究である。そのため、ウズベク語において、1. ~ 4.が「脅し」の意味を表すのに必須の要件なのかという点までは明らかにしていない。

(22) *Qani, bizniki-ga kel-ib ko'r-sin=**chi**, oyog'-i-ni*
where place.where.we.are.in-DAT come-CVB.SEQ see-IMP.3 leg-3.POSS-ACC
sindir-a=man.
break-NPST=1SG
「あいつをオレたちのところに来させてみろ、足を折ってやるぞ。」(風間 2018: 6)

(22) の=*chi* を抜いた文を母語話者に提示したが、*kel-ib ko'r-sin*「来させてみろ」が反語命令を表すことに変わりはないという指摘を得た。したがって、(19)～(22) の各例から、=*chi* そのものは反語命令を表さないと言える。

②で「切迫した要求」「依頼」「強い命令」「話者の意図」が表される場合、条件形＋=*chi* が用いられるとされるが、中嶋 (2015: 81) は、「文末で、話し手の希望を婉曲的に表す」という条件形の用法の例として、(23) と (24) を挙げている。

(23) *Men-ga biroz suv ol-ib **kel-sa-ngiz.***
1SG-DAT some water take-CVB.SEQ come-COND-2PL
「私に少し水を持ってきて頂きたいです。」(中嶋 2015: 81)

(24) *Qaniydi boy **bo'l-sa-m**.*
if.only rich be-COND-1SG
「願わくは私が金持ちであればなあ。」(中嶋 2015: 81)

(23) では、条件形に二人称語尾が付くことで、聞き手に対する話し手の希望が表されている。他方、(24) では、条件形に一人称語尾が付くことで、話し手自身の希望が表されている。以上で見たように、中嶋 (2015: 81) による記述から、条件形自体が「要求」「命令」「願い」を表せると言える。

③の「疑問」について述べる。ウズベク語において、典型的な疑問は、疑問詞あるいは小詞 =*mi* で表される。(25) では疑問詞 *nima*「何」、(26) では小詞 =*mi* が用いられている。これらは、話し手が疑問点を提示しているという点で典型的な疑問文[5]であると考えられる。

(25) *Ular-ga **nima-ni** taklif qil-di-ngiz?*
3PL-DAT what-ACC suggestion do-PAST-2PL
「あなたは彼らに何を提案しましたか。」(中嶋 2015: 36)

(26) *Siz kel-a=siz**=mi?***
2PL come-NPST=2PL=Q
「あなたは来ますか？」(Bodrogligeti 2003: 1015)

[5] 上垣 (2015: 46-47) では、「疑問文とは、典型的には疑問を提示する機能を持つ特定の文のタイプの 1 つである」とされている。

先行研究では、これらの典型的な疑問文と=*chi* による疑問文との違いについては言及がなく、=*chi* がどのような疑問を表すのか明らかにしていない。

④の「強調、説明」は、前節で挙げた (12) と (13) を一見しただけでは、=*chi* が何を強調しているのかが不明である。そこで、筆者は、(12) と (13) の後に付されている、文学作品の作者名 (A. Muhtor) をもとに、それぞれの例が *Chinor*『プラタナス』(Olim et al. 2014: 46) という作品に収録されていることを探し出した。(27) は、(12) に対する質問である。

(27) *Nega qidir-a=di? Azimjon kim?*
why search-NPST=3 PN who
「なぜ探すのですか？アジムジョンとは誰でしょうか？」

(12) *Azimjon=**chi**, sen-ga ammavachcha bo'l-a=di.*
PN=CHI 2SG-DAT cousin be-NPST=3
「アジムジョンは、君に対してのいとこになる。」(再掲)

(12) は、前文 (27) の質問を受けて、アジムジョンが誰であるかを説明している。つまり、=*chi* は主題 (topic) に付加され、=*chi* の後に=*chi* が付加された要素の解説 (comment) が述べられている。

(13) では、文脈を参照するに、他の誰でもない「私自身のこのとても長い人生で」という意味、つまり、対比を表すために、=*chi* が用いられている。

(13) *Men shu uzun-dan+uzoq umr-im-da=**chi**, bola-m, hech qachon*
1SG that long-ABL+distance life-1SG.POSS-LOC=CHI child-1SG.POSS no when
bun-day ojiz, bun-day ayanch hol-ga tush-gan emas=di-m.
this-like weak this-like pitiful state-DAT fall-PTCP.PAST NEG=PAST-1SG
「私は、このとても長い人生では、子よ、決してこのように弱った、このように哀れな状態に陥らなかった。」(再掲)

上記の Abdurahmonov et al. (1975: 576) の「強調、説明」の箇所で挙げられていた用例を観察するに、この場合の =*chi* は「主題標示」として機能していると解釈できる。相原 (2015: 114) によれば、「主題は、解説 (comment) が加えられる対象であり、ある文がある事物についての聞き手の知識を増やすような情報を表していると解釈できる場合、その事物やそれを指し示す言語表現はその文の主題 (題目、話題とも) と呼ばれる」と定義される。ただし、Abdurahmonov et al. (1975: 576) では、=*chi* が含まれる文と先行文脈や発話場面との関係に関して特に指摘はないため、=*chi* が「主題標示」として機能しているとは言い切れない。

以上のように、先行研究では、先行文脈や発話場面を明らかにせずに=*chi* の機能を記述しているために、本節で指摘したような不明な点が残ってしまっていると考えられる。そこで、本稿では、先行文脈や発話場面を考慮に入れながら、調査・考察を行い、=*chi* の機

能を明らかにする。

3. 調査

本節で調査の概要を述べてから、各小節で=*chi* について分析する。

まず、テキスト調査を行う。筆者作成のコーパスと、ウズベク語教育用コーパス (O‘zbek tilining ta’lim korpusi; http://uzschoolcorpara.uz; 以降 OTTK と略して呼ぶ) を用いて=*chi* の例を抽出する。

筆者作成のコーパスでは、採録されたテキスト全文にアクセスできる。そのため、抽出された用例の先行文脈や発話場面を考慮に入れて分析を行うことが可能である。コーパスは、インターネットニュースサイト Ozodlik radiosi (http://www.ozodlik.org) からの記事 (2014 年 1 月から 8 月、2015 年 7 月から 11 月、2016 年 3 月から 4 月に web に掲載された記事) と、小説 *Besh qiz va bir yigit*『5 人の女の子と 1 人の若者』と、短編集 Laude-Cirtautas (1980) から成る (単語数 約 3 万 4 千、文字数 約 324 万)。正規表現を用いてテキストエディタの検索機能で=*chi* の用例を抽出したところ、9 例抽出することができた。本稿でこのコーパスから用例を挙げる際には、用例末に当該の文が所収されている作品のタイトルと行番号を付す。

筆者作成のコーパスでは例が少ないため、OTTK でさらに用例を集める。OTTK の基礎的な情報 (総語数・ジャンルなど) は、公開されていない。

検索窓に “-chi” と入力し[6]検索したところ、5802 例が得られた。OTTK では、各用例の前後文脈や出典元などの情報が参照できる。ただし、どのような基準で用例が並べられているのかは不明であり、5802 例の中には =*chi* を含まない用例もカウントされている。本稿では、これら 5802 例のうち、=*chi* を含み、かつ先行文脈が参照可能な用例 100 例までを分析対象とする。本稿で OTTK から用例を挙げる際には、用例末に当該の文が所収されている作品のタイトルを付す。

3.1 節のテキスト調査では、=*chi* の統語的位置と、前節要素の形態的特徴と、=*chi* が付された句・節が表す機能に即して、各用例を四つに分類した。その分類ごとに抽出された用例を分析した結果、=*chi* を含む文が先行文脈と照応関係にあることを明らかにした。したがって、先行文脈と照応関係になければ、=*chi* が使えないと考えた。この仮説を裏付けるために、3.2 節でインフォーマントへの聞き取り調査を行う。さらに、=*chi* を含む文の読み上げ調査も行う。先行研究では、表 1 に挙げたように、=*chi* が文末に位置する際の様々な用法が記述されている。そのため、それぞれの用法で文末のイントネーションが異なると推察される。インフォーマントは 1989 年生まれ、タシケント市生まれの男性 1 名である。

3.1. テキスト調査

テキストから得られた用例を、表 1 に挙げた=*chi* の統語的位置と前接要素の形態的特徴に加えて、もう 1 つ、「聞き手に尋ねている」という基準を付け足し、=*chi* が付された句・節が表す機能に即して、表 2 の a. ~ d. のように各用例を分類する。なぜならば、先行研究では、条件形＋=*chi* という形式が「切迫した要求」「依頼」「強い命令」「話者の意図」を

[6] =*chi* を綴る場合は、ハイフンを用いて、-chi と表記するのが慣例である。

表すと記述されているが (表 1 を参照されたい)、条件形＋=*chi* であっても 4 つのうちのいずれの意味も表さない場合 (下記に挙げる (29) と (35)) が見られたためである。

表 2: テキスト調査における用例の分類と分類基準の一覧

=*chi* の統語的位置	前接要素の形態的特徴	その他の特徴	先行研究による機能に関する記述
a. 文中	なし	なし	強調、説明 (主題標示)[7]
b. 文末	命令形	なし	命令、脅し (反語命令)[8]、促し、依頼、願望
c. 文末	条件形	なし	切迫した要求、依頼、強い命令、話者の意図
d. 文末	なし	聞き手に尋ねている	疑問

以降、表 2 の a. から順に例を挙げる。

a. =*chi* が文中に位置し、「強調 (主題標示)」として機能する場合:

句に=*chi* が付されている例を (28) に、節に=*chi* が付されている例を (29) に、それぞれ挙げる。

(28) は、花に水を注げば蝶が来ると知って、家に帰って花に水を注ごうとした時の主人公の発話である。

(28) *Gul-lar-ga* *suv* *quy-a=man.* *Innaykeyin=**chi**,* *gul-lar-im-ga*
flower-PL-DAT water pour-NPST=1SG after.that=CHI flower-PL-1SG.POSS-DAT
kapalak *kel-a=di.*
butterfly come-NPST=3
「私は花に水を注ぎます。その後には、私の花に蝶が来ます。」(Kapalak: 42)

(28) では、=*chi* によって、先行文脈「花に水を注ぎます」を受け継いだ要素 *Innaykeyin*「その後に」が談話に導入されている。

(29) の前には、「パリの女子を連れてきても、私の城に 10 種類の変化が訪れないが…」という旨を表している文があり、その後に、(29) が述べられている。

(29) *... arab* *qiz-lar-i-dan* *bitta-si-ni* *ol-dir-ib* *kel-sa-m=**chi**,*
Arab girl-PL-3.POSS-ABL one-3.POSS-ACC take-CAUS-CVB.SEQ come-COND-1SG=CHI

[7] 先行研究では「強調、説明」というラベルのみ提示されているが、先行研究に挙げられている用例を参照するに「主題標示」として機能していると解釈可能である、と 2 節末で述べたため、このように主題標示を丸括弧に入れて表記している。

[8] 先行研究では、「脅し」というラベルで説明されているが、先行研究の例 (2) を見るに、話し手が実際には実現が望ましくない事態に対して、文字通りにはその事態を行うように聞き手に訴えている。つまり、(2) は反語命令の文であると言える。風間 (2018: 6) による=*chi* が付いた (22) も反語命令の例である。したがって、このように反語命令を丸括弧に入れて表記する。

qasr-im-ga *o‘n* *xil* *o‘zgar-ish* *kir-a=di,...*
castle-1SG.POSS-DAT ten kind change-VN enter-NPST=3
「(前略) アラブの女子のうち一人を連れてくるならば、私の城に 10 種類の変化が訪れる...」(Baron Fon Ring)

(29) は、先行文脈「パリの女子を連れてきても、私の城に 10 種類の変化が訪れないが…」の対比として、*arab qiz-lar-i-dan bitta-si-ni ol-dir-ib kel-sa-m=chi*「アラブの女子のうち一人を連れてくるならば」が述べられている例である。

(28) と (29) に共通しているのは、=*chi* を含んだ要素が先行文脈と関連があるということである。ただし、それぞれの用例では、先行文脈との関係が異なっている。(28) では、=*chi* を含んだ要素は先行文脈を受け継いでいるが、(29) では、=*chi* を含んだ要素は先行文脈との対比として述べられている。コーパス中の用例のうち、a. と判断された用例では、全て先行文脈を受け継いだ要素か先行文脈ですでに表れている要素に=*chi* が付されている。

b. =*chi* が文末に位置し、その前接要素が命令形であり、「命令」、「脅し (反語命令)」、「促し」、「依頼」、「願望」を表す場合:

一人称 (30) 、二人称 (31)、三人称 (32) の命令形に=*chi* が付されている例を挙げる。

(30) は、ある女子と会長たちの会話であり、一人称複数命令形に=*chi* が付されている。

(30) — *Rais* *bobo,* *bir* *taklif* *bor.* — *Xo‘sh,* *xo‘sh,* *eshit-aylik=**chi?!***
leader grandfather one proposal existent well well listen-IMP.1PL=CHI
「会長さん、1 つ提案があります。」 「さあ、さあ、聞きましょう？！」
(BeshQiz_va_BirYigit: 1787)

(30) の 2 番目の文で、会長たちは、提案を聞いてほしいという女子の意向に沿って、その提案を聞こうとしている。

(31) は、ある年輩の男とある女子の会話であり、二人称命令形に=*chi* が付されている例である。

(31) — *Ha,* *manavi* *surat-ni* *ko‘r-ib,* *yoshlig-im* *es-im-ga*
yes that picture-ACC see-CVB.SEQ young.age-1SG.POSS memory-1SG.POSS-DAT
tush-ib *ket-di-ø,* *qiz-im.* *Men* *ham mashina* *hayda-b*
fall-CVB.SEQ leave-PAST-3SG girl-1SG.POSS 1SG also car drive-CVB.SEQ
paxta *ter-gan=man.*
cotton gather-PRF=1SG
「そう、この写真を見て、自分の若い時を思い出してしまった、女子よ。私も車を運転して綿を集めた。」

— *Qani, ko‘rsat-ing=**chi**.*
INTJ show-IMP.2PL=CHI
「どれ、見せてください。」(BeshQiz_va_BirYigit: 4972)

(31) では、年輩の男が新聞を読みながら、その新聞に掲載されている写真について話しており、ある女子がその新聞に載った写真を見せるようにお願いしている。つまり、女子は年輩の男の意に沿って *=chi* を含む文を発話している。

(32) は、三人称命令形に*=chi* が付されている例である。この文は、ある人が「妻を強く束縛すれば、妻はあなたが無知のままであることを期待する」と言ったあとの、ノルコジ氏による命令文である。この用例中のブルカは女性を束縛するもののメタファーであると考えられる。

(32) *Mulla Norqo‘zi bu odam-ning oddiy haqiqat-ni angla-maslig-i-dan*
mulla PN this person-GEN normal fact-ACC understand-VN.NEG-3.POSS-ABL
koyi-di-ø:
scold-PAST-3
「ノルコジ氏はこの人が通常の真実を理解していないことを叱った：」

— *Behuda gap! Mana mening xotin-im, nima ekan-i-ni*
useless talk exactly 1SG.GEN wife-1SG.POSS what COP.PTCP-3.POSS-ACC
o‘z-im bil-a=man. Paranji-si-ni tashla-b ikki kun
own-1SG.POSS know-NPST=1SG burka-3.POSS-ACC throw-CVB.SEQ two day
*ko‘cha-da yur-sin**=chi**!*
street-LOC walk-IMP.3=CHI
「意味のない話だ！ほら、私の妻だ、私は彼女が何であるか知っている。(私の妻に) ブルカを外して二日間通りを歩かせろ！」(Mayiz yemagan xotin)

(32) の *=chi* が含まれた文は、「妻を束縛するべきではない＝ブルカを外して通りを歩かせるべきである」という聞き手の意向に沿った命令となってはいるが、実際は「自分の妻にブルカなしで通りを歩かせるな」という反語命令 (先行研究で言う「脅し」に相当) を表している (cf. (2))。

(30), (31), (32) では、全て、聞き手の意向に沿うと話し手が想定している命令に*=chi* が付されている。ただし、反語命令の場合 (32) は、形式上は聞き手の意向に沿った命令となっているが、語用論的には聞き手の意向とは逆の意向を表している。コーパス中の用例のうち、b. と判断された用例では、全て聞き手の意向に沿った命令に*=chi* が付されている。

c. *=chi* が文末に位置し、その前接要素が条件形で、「切迫した要求」、「強い命令」、「依頼」、「話者の意図」を表す場合:

一人称 (33) 、二人称 (34) の条件形に*=chi* が付されている例を挙げる。c. と判断された用

例には、三人称の例はない。

(33) は、話し手の願望が一人称条件形＋=*chi* で表されている例である。

(33) — *Bu yer yut-kur*[9] *qanday balo ekan! Odam-lar=day*
this place swallow-PTCP how misfortune EVID person-PL=ADVLZ
guluta-ga, tuz-ga, kesak-ka bosh+qorong'i[10] *bo'l-sa-m=**chi!***
bentonite-DAT salt-DAT clod-DAT head+dark be-COND-1SG=CHI
「この何もないことはどうにもならないことだ！人々のように、粘土を、塩を、土くれを妊娠中に無性に食べたくなればなあ。」(Anor)

(33) では、話し手は、子供ができないことを「どうにもならない」と述べてから[11]、=*chi* が付いた文で、妊娠を望んでいることを反事実的に述べている。

(34) は、話し手の願望が二人称条件形＋=*chi* で表されている例である。

(34) *Ayol-ning yongina-si-da, shundoq odam-lar-ning oyoq ost-i-da qo'l*
lady-GEN side-3.POSS-LOC like.that person-PL-GEN leg bottom-3.POSS-LOC hand
telefon-i yot-ar=di-ø. Un-dan "Alo, tez yordam eshit-a=di,
telephone-3.POSS lie-PTCP.FUT=PAST-3 3SG-ABL hello quick help hear-NPST=3
*gapir-sa-ngiz=**chi**!" de-gan ovoz tinimsiz takrorla-n-ar=di-ø.*
speak-COND-2PL=CHI say-PTCP.PAST voice restless repeat-PASS-PTCP.FUT=PAST-3
「その女性の横に、その人たちの足元に、携帯電話が転がっていた。彼女から「もしもし、救急車が聞いています。話していただけませんか！」という声が休みなく繰り返されていた。」(Pillapoya)

(34) では、話し手である女性が =*chi* の前文で自身の近くにある携帯電話と救急車がつながっていることを周りの人に説明し、近くにいる人に携帯電話に向かって話すように求めている。

(33) と (34) に共通しているのは、=*chi* を含む文が、その直前の文が表す内容を受け継いでいるということである。(33) では、=*chi* の前文で子供ができないことについて嘆き、=*chi* を付した文で妊娠を望んでいることを述べている。(34) では、=*chi* の前文で自分のそばにある携帯電話が救急車とつながっていることを述べてから、=*chi* を付した文で聞き手に通話をお願いしている。

コーパス中の用例のうち、c. と判断された用例では、全て、=*chi* を付した文の直前の内容および状況を受け継いだ文に=*chi* が付されている。直前の内容および状況を従属節が説

[9] 直訳すると「地面が飲み込むような (さま)」という意味だが、「何もない (さま)」を表す。
[10] この複合語は、妊娠中にある特定のものを無性に食べたくなるさまを表す。
[11] この発言の後に、妻による (33) の発言を指して、夫が *Hali tug'ilmagan bolani yer yutkur deding-a.*「まだ生まれていない子供を何もないさまだと言ったね。」と言っていることから、*yer yutkur* は子供に関する話題を指していると推測される。

明している複文の主節部分 (例えば、「～するとき、～してください」という文における「～してください」) に=*chi* が付された例は見られなかった。

d. =*chi* が文末に位置し、聞き手に尋ねて、「疑問」を表す場合:

=*chi* が「疑問」を表す場合、1 節で挙げた、名詞に=*chi* が付く例のみならず (cf. (11))、条件文の前件 (35)、副詞 (36) に=*chi* が付く例も収集できた。これらの例のうち、=*chi* が表す部分と対照的である部分、および =*chi* の前部要素それぞれに下線を付す。

(35) は、事務所に突如上がり込んできた一味のうちのリーダーが、事務所の主と話す場面である。

(35) — *Bratan, endi biz bilan bir karta o'yna-y=siz, yutqaz-sa-ngiz, bizlar*
brother now 1PL with one card play-NPST=2PL lose-COND-2PL 1PL
qol-ib, qiz-lar bilan maishat qil-a=miz, ...— de-di-ø ochiqchasiga.
remain-CVB.SEQ girl-PL with partying do-NPST=1PL say-PAST-3SG honestly
「『兄弟、今あなたは私たちと一度トランプをやる、あなたが負ければ私たちが残って、女の子たちとパーティーする (中略)』と率直に言った。」

— *Karta o'yna-ma-sa-m=**chi?***
card play-NEG-COND-1SG=CHI
「トランプをしなければ (どうなりますか)？」(BeshQiz_va_BirYigit: 3919)

(35) では、先行する発話の *bir karta o'yna-y=siz*「あなたは一度トランプをやる」という部分と対比して、=*chi* が含まれる文 *Karta o'yna-ma-sa-m=chi?*「トランプをしなければ (どうなりますか)？」が発話されている。

(36) は、国家の形成において、色々な要素が相互作用を起こしうることについて説明している。

(36) *Lekin, shunisi bor=ki, uzoq asr-lar davom-i-da bu*
but that existent=CMPL distant century-PL continuation-3.POSS-LOC this
aloqa+ta'sir-lar juda sekinlik bilan, kichik doira-lar-da, chegara old-i
relation+effect-PL very slow with little circle-PL-LOC border front-3.POSS
*hudud-lar-i-da ro'y ber-ar=di-ø. ... Hozir=**chi?***
territory-PL-3.POSS-LOC surface give-PTCP.FUT=PAST-3 now=CHI
「しかし、次のことがある。遠い昔には、これらの相互作用は、非常に遅く、小さな範囲で、辺境で、生じていた。(中略) 今は (どうだろうか)？」(Vatan tuyg'usi)

(36) では、先行する文の *uzoq asr-lar davom-i-da*「遠い昔には」という部分に対して、書き手が *Hozir=chi?*「今は (どうだろうか)？」と読み手に尋ねている。

上記の (35) と (36)では、先行する発話のある部分と対比されている部分に=*chi* が付いて

いる。かつ、=*chi* が含まれる文には、対比的な部分以外は表れていない。コーパス中の用例のうち、d. に分類された全ての例には、先行文脈のある部分に対して対照的な要素に =*chi* が付き、それ以外の要素は=*chi* が含まれる文に現れていない。

以上、a. ~ d. でそれぞれの例 ((28) ~ (36)) を挙げた。これらの各用例に共通している特徴は、=*chi* が付された文は、先行文脈を受け継ぐか、先行する発話との対比的な関係を示しているということである。したがって、当該の発話文が先行文脈と照応関係になければ、=*chi* が使えないという仮説が立てられる。

3.2. インフォーマント調査

前節のテキスト調査の結果、「先行文脈と照応関係がない状況では、=*chi* は使えない」という仮説が立てられた。その仮説を検証するために、先行文脈と照応関係がないような状況 (下記 a. と b.) で =*chi* を発することができるかどうかインフォーマントに聞き取り調査を行った (今回の調査では、先行文脈と照応関係がない状況を作りやすい命令文に関してのみ調査を行った): a. 先生が自分の部屋に来た学生に対して「座ってください」というときに=*chi* は使えるか、b. 料理本での指示、例えば「塩を入れてください」に=*chi* は使えるか。下記の (37) と (38) に示すように、a. では、=*chi* を使えるという。一方、b. では、=*chi* は使えないという回答を得た[12]。

(37) a. 先生が自分の部屋に来た学生に対して「座ってください」というとき
*Qani, o'tir-ing=**chi**.*
INTJ sit-IMP.2PL=CHI
「さあ、座ってください。」

(38) b. 料理本での指示
**Sol qo'y-ing=chi.*
salt put-IMP.2PL=CHI
［意図した読み：塩を入れてください。］

これは、=*chi* が含まれる文と前提とがどのような関係にあるかが関わると考えられる。Lambrecht (1994: 52) によれば、前提は次のように定義される: "The set of propositions lexicogrammatically evoked in a sentence which the speaker assumes the hearer already knows or is ready to take for granted at the time the sentence is uttered." つまり、前提とは、「文の中で語彙文法的に喚起され、文が発せられた時点で聞き手がすでに知っているかあるいは当然知っていると話し手が想定している命題の集合」であると定義される。例えば、a. では、話し手は聞き手と「部屋に来たら座って話す」という共通認識を持つと想定している。これが

[12] 査読者の 1 名から「これは音声媒介の発話ではなく、書き言葉による説明であることに起因している可能性があるのではないか」という指摘をいただいた。筆者のコーパス調査では、確かに会話の用例が圧倒的多数を占めるが、書き言葉の地の文で =*chi* が用いられている例 (36) もあった。したがって、現時点では、=*chi* が書き言葉では用いられないとは言い切れない。

前提であり、その前提に沿った発話が行われている[13]。他方、b. では、話し手は、聞き手が当該の料理の作り方について知識がないことを想定している。したがって、*=chi* は、前提に沿った発話を行う場合には用いられるが、そうでない場合には用いられないと言える。以上より、*=chi* は、前提との関係を標示している、と言える。

さらに、読み上げ調査で、文末に*=chi* が位置する場合のイントネーションについて分析を行った。筆者作成のコーパス収録済みの *Besh qiz va bir yigit*『5 人の女の子と 1 人の若者』という小説からの用例と OTTK からの例を前後文脈と共に音読するようインフォーマントへ指示をした。その結果、d. (*=chi* が文末に位置し、聞き手に尋ねて、「疑問」を表す場合) の文は全て下降調を取ること、一方、b. (*=chi* が文末に位置し、その前接要素が命令形であり、「命令」、「脅し」、「促し」、「願望」を表す場合) と、c. (*=chi* が文末に位置し、その前接要素が条件形で、「切迫した要求」、「強い命令」、「話者の意図」を表す場合) の文は、全て上昇調を取ることが明らかとなった。

4. 考察・結論

3.2 節のインフォーマント調査では、「*=chi* は、前提との関係を標示している」ということを明らかにした。この結果をもとに、テキスト調査の結果を表 2 の a. から順に整理する。

表 2 (再掲): テキスト調査における用例の分類と分類基準の一覧

=chi の統語的位置	前接要素の形態的特徴	その他の特徴	先行研究による機能に関する記述
a. 文中	なし	なし	強調、説明 (主題標示)
b. 文末	命令形	なし	命令、脅し (反語命令)、促し、依頼、願望
c. 文末	条件形	なし	切迫した要求、依頼、強い命令、話者の意図
d. 文末	なし	聞き手に尋ねている	疑問

a. *=chi* が文中に位置する場合、*=chi* が前提を受け継いだ要素あるいは前提中の要素を談話に導入し、その後にはその要素に関する情報が述べられている。

コーパスでは、前提に沿う場合 (28) と、前提と対照的である場合 (29) が得られた。(28) では、「花に水を注ぎます」という先行文脈を受け継いだ要素である *Innaykeyin*「その後に」に *=chi* が付された後に、「私の花に蝶が来ます」と述べられている。他方、(29) の直前で「パリの女子を連れてきても、私の城に 10 種類の変化が訪れない」ということが述べられ、(29) では、その内容との対比として、*arab qizlaridan bittasini oldirib kelsam*「アラブの女子のうち一人を連れてくるなら」に*=chi* が付され、その後に、「私の城に 10 種類の変化が訪れる」と述べられている。コーパスから得られた全ての a. の例、および先行研究で「強調」とされている用例 ((12), (13); 2 節末参照) にも、同様の特徴が見られる。

[13] a. に関しては、座って話すことがより当然であるような状況 (例えば、面接会場で面接官が応募者に向かって「座ってください」というような状況) を設定して聞き取り調査を行う必要があろう。

以上より、a. の場合に=*chi* が付される要素は、主題 (topic) であると言える。相原 (2015: 114) によれば、「主題は、解説 (comment) が加えられる対象であり、ある文がある事物についての聞き手の知識を増やすような情報を表していると解釈できる場合、その事物やそれを指し示す言語表現はその文の主題 (題目、話題とも) と呼ばれる」と定義される。今回の調査では、a. と分類された用例において、=*chi* は主題に付いており、その後に主題に関する解説 (comment) が述べられている。したがって、本稿では、a. の場合、=*chi* は、「強調、説明」を表すのではなく、「主題標示」として機能し、前提に沿った主題にも、前提と対照的な主題にも付きうる、と結論付ける。

b. =*chi* が文末に位置し、その前接要素が命令形である場合と、**c. =*chi* が文末に位置し、その前接要素が条件形である場合**、話し手は、先行文脈あるいは発話場面から推察される前提に沿って、=*chi* が付く文によって表される行為を命令したり、その行為への願望を表したりしている。

コーパスから抽出した用例は、2 パターンに分けられる。1 つは、前提に沿う文に=*chi* が付く場合である。聞き手の意向に沿う文の例は、(30) と (31) を、先行文脈に沿う文は (33) と (34) を参照されたい。(30) は、ある女子と会長たちの会話であり、その例中で会長の発話に一人称複数命令形＋=*chi* が用いられている。この例では、「提案がある」という女子に応じて、つまり前提に沿って、会長たちが女子たちの話を聞こうとしている。(31) はある年輩の男とある女子の会話であり、その例中で二人称命令形＋=*chi* が用いられている。この例では、年輩の男が自分が読んでいる新聞に掲載されている写真について話した後に、ある女子が年輩の男が読んでいる新聞に載った写真を見せるように、つまり前提に沿って、=*chi* を付した命令文で依頼している。(33) では、話し手は、自分に子供ができないことをどうにもならないことだと述べた後に、その話題に関連して、つまり前提に沿って、条件形に=*chi* が付いた文で妊娠を望んでいることを述べている。(34) では、話し手が自身の近くにある携帯電話と救急車がつながっていることを周りの人に説明してから、近くにいる人に携帯電話に向かって話すように、つまり前提に沿うように、条件形＋=*chi* を含んだ文を用いて求めている。

もう 1 つは、形式上は聞き手の意向に沿っているが、語用論的には聞き手の意向とは逆の事柄を表す反語命令に=*chi* が付く場合 (32) である。(32) では、形式上は「妻を束縛するべきではない＝ブルカを外して通りを歩かせるべきである」という聞き手の意向に沿って「妻に通りを歩かせろ」と言っているが、語用論的には「自分の妻にブルカなしで通りを歩かせてならない」という聞き手の意向とは逆の意向を表している。

コーパスから得られた b. と c. 全ての例は上記 2 パターンのいずれかである (先行研究に挙げられた用例 ((1) ~ (9)) には、先行文脈がないため、ここでは取り扱うことができない)。したがって、本稿では、b. と c. において、=*chi* は、先行研究で述べられていたように「命令」「脅し」「促し」「願望」「切迫した要求」「強い命令」「話者の意図」を表すのではなく、「前提に沿った要求」として機能している、と結論付ける[14]。この場合の文末イントネ

[14] 査読者の 1 人から、「命令形における人称の違いが =*chi* の解釈に影響を与えない可能性はないのか」という指摘を頂いた。筆者は、その可能性はないと考える。なぜならば、命令形に付いた=*chi* には解釈のずれが見られないためである。

ーションは、上昇調である。

d. =*chi* が文末に位置し、聞き手に尋ねている場合の *=chi* を含む文には、前提と対照的な要素に*=chi* が付き、対照的な要素以外は*=chi* が含まれる文に現れないという特徴がある。

(35) は、事務所に突如上がり込んできた一味のリーダーが、事務所の主と話す場面である。一味のリーダーの *bir karta o'yna-y=siz*「あなたは一度トランプをやる」という発言に対して、事務所の主が *Karta o'yna-ma-sa-m=chi?*「トランプをしなければ (どうなりますか)？」と聞いている。(36) は、国家の形成において、色々な要素が相互作用を起こしうることについて説明している例である。直前の文の *uzoq asr-lar davom-i-da*「遠い昔には」という部分に対して、*Hozir=chi?*「今は (どうだろうか)？」と読み手に尋ねている。

上記の (35) と (36) において、*=chi* が含まれる文には、対比的な部分以外は表れていない。d. に分類された全ての例には、先行文脈のある部分に対して対照的な要素に*=chi* が付き、それ以外の要素は*=chi* が含まれる文に現れていない。これに対し、疑問小詞 *=mi* は、前提と対照的な要素に付くことも、その要素だけが文中に現れることもない (cf. (26))。したがって、本稿では、d. において、*=chi* は、「疑問」を表すのではなく、「対比疑問」を表すと結論付ける。この場合の文末イントネーションは、下降調である。

次に、本稿での議論と結論を、下記の表 3 にまとめる。本稿では、*=chi* は、前提との関係を標示するという機能を持ち、次の 3 つの用法 (1. 前提に沿った要求、2. 主題標示、3. 対比疑問) を持つことを明らかにした。「1. 前提に沿った要求」の場合、話し手は、前提に沿って、*=chi* が付く文によって表される行為を要求する。*=chi* の統語的位置は「3. 対比疑問」と同じく文末に位置するが、文末イントネーションによって二者の区別が可能であり、1. の場合は上昇調を取るが、3. の場合は下降調を取る。「2. 主題標示」の場合、前提を受け継いだ句・節、あるいは前提中の句・節に*=chi* が付き、それを談話に導入し、その後に *=chi* が付された句・節に関する情報を述べている。「3. 対比疑問」の場合、対照的な節・句以外は *=chi* が含まれる文には現れず、前提と対照的な前提に沿った句・節に *=chi* を付けて聞き手に質問する。文末イントネーションは、前述のように、下降調を取る。

表 3: *=chi* の用法

本研究の記述	先行研究の記述	前提との関係	*=chi* の統語的位置	前接要素の形態的特徴	文末イントネーション
前提に沿った要求	命令、脅し、促し、願望 切迫した要求、強い命令、話者の意図	前提に沿う	文末	命令形、条件形	上昇調
主題標示	強調、説明	前提に沿うか、対照的	文中	特になし	—
対比疑問	疑問	対照的	文末	対照的要素のみ現れる	下降調

最後に、今後の課題について述べる。1 節で言及したように、先行研究では、二人称条件形に*=chi* が付くと、「切迫した要求」(6)、「強い命令」(8) を表すとされている

(Abdurahmonov et al. 1975: 576, Kononov 1960: 334)。本稿でも、二人称条件形＋=*chi* の例として、(34) を挙げた。2 節の (23) と (24) に挙げたように、中嶋 (2015: 81) が、条件形が「文末で、話し手の希望を婉曲的に表す」と述べており、この記述から、条件形それ自体は「要求」「命令」を表していると言える。したがって、=*chi* 自体は「要求」「命令」を表すわけではなく、要求が切迫していることを表す、あるいは発話時点で未だに行われていない行為を促すために用いられる、と推察される。これは、=*chi* が前提に沿った要求を表すため、つまり、発話時点で聞き手が自身で行うことをすでに知っているはずだと話し手が認識しており、=*chi* を用いて聞き手に行為の実行を促すためだと、筆者は考えている。しかし、本稿では、=*chi* が「要求が切迫していることを表す」「命令を強くする」という点については十分に検討することができなかった。今後は、=*chi* が「要求が切迫していることを表すのかどうか」「発話時点で未だに行われていない行為を促すのかどうか」について、適切な状況を設定してインフォーマント調査を通して明らかにする必要がある。例えば、設定された状況から当該文で表される行為をするのが明らかに適切だとしか読めない命令文と、そうではない命令文を設定し、それに=*chi* がつくかどうかを検証しなければならない。

謝辞

本研究は、日本学術振興会 科研費 JP22J01538 の助成を受けている。

本稿の内容は、2021 年度ユーラシア言語コンソーシアム年次総会 (2022 年 3 月 29 日、京都大学文学研究科附属羽田記念館および Zoom によるハイブリッド開催) における発表内容、および日本言語学会第 164 回大会 (2022 年 6 月 18 日、Zoom によるオンライン開催) における発表内容に大幅な加筆と修正を加え、発展させたものである。調査へのご協力のみならず、本稿作成時に筆者の質問に丁寧に答えてくださったインフォーマントの方々、発表時にコメントをくださった方々、2 名の匿名の査読者、それぞれに深く感謝申し上げる。ただし、本稿における誤りは、全て筆者に帰するものである。

略号一覧

-		接辞境界	GEN	genitive	属格
=		接語境界	IMP	imperative	命令
+		複合語境界	INTJ	interjection	間投詞
1	first person	一人称	LOC	locative	処格
2	second person	二人称	NEG	negative	否定
3	third person	三人称	NPST	no-past	非過去
ABL	ablative	奪格	PASS	passive	受身
ACC	accusative	対格	PAST	past	過去
ADVLZ	adverbializer	副詞化	PL	plural	複数
CAUS	causative	使役	PN	person’s name	人名
CMPL	complementizer	補文標識	POSS	possessive	所有

COND	conditional	条件	PRF	perfect	パーフェクト
COP	copula	コピュラ	PTCP	participle	形動詞
CVB	converb	副動詞	Q	question	疑問
DAT	dative	与格	SEQ	sequential	継起
EVID	evidential	証拠性	VN	verbal noun	動名詞

参考文献

Abdurahmonov, G‘. A., Sh. Sh. Shoabdurahmonov, and A. P. Hojiyev (1975) *O‘zbek tili grammatikasi I-tom Morfologiya.*［ウズベク語文法 第 1 巻 形態論］Toshkent: O‘zbekiston SSR “Fan” nashriyoti.

相原まり子 (2016)「主題」斎藤純男・田口善久・西村義樹編『明解言語学辞典』114–115. 東京: 三省堂.

Bodrogligeti, András J. E. (2003) *An Academic Grammar of Modern Literary Uzbek*. München: Lincom Europa.

風間伸次郎 (2018)「アルタイ型言語における命令形の反語用法・条件用法について」寺村政男編『言語の研究』1–19. 東京:『水門 (みなと) ―言葉と歴史』編集部.

Kononov, Andrej N. (1960) *Grammatika sovremennogo uzbekskogo literaturnogo jazyka.*［現代標準ウズベク語文法］Moskva, Leningrad: Izdatel’stovo akademii nauk SSSR.

Lambrecht, Knud. (1994). *Information Structure and Sentence Form: Topic, Focus, and the Mental Representations of Discourse Referents*. Cambridge: Cambridge University Press.

中嶋善輝 (2015)『簡明ウズベク語文法』大阪: 大阪大学出版会.

Nasilov, D. M., Isxakova, X. F., Safarov, Š. S. and Nevskaja, I. A. (2001) Imperative sentences in Turkic languages. *Typology of Imperative Constructions.* Xrakovski, V. S. (ed.). München: Lincom: 181–220.

Sjoberg, Andrée F. (1963) *Uzbek Structural Grammar*. Uralic and Altaic Series, Vol.18 Bloomington: Indiana University.

上垣渉 (2015)「疑問文」斎藤純男・田口善久・西村義樹編『明解言語学辞典』46–47. 東京: 三省堂.

調査資料

Beknazarov, O‘roz va Ismoil Yuldashev (2007) *Besh qiz va Bir yigit.*［5 人の女の子と 1 人の青年］Toshkent: Cho‘lpon nomidagi nashriyot-matbaa ijodiy uyi.

Laude-Cirtautas, Ilse. (1980) *Chrestomathy of Modern Literary Uzbek.* Wiesbaden: Harrassowitz.

Ozodlik radiosi (http://www.ozodlik.org)［最終閲覧日: 2022/12/16］

Olim, Sultonmurod, Sunnat Ahmedov and Rahmon Qo‘chqorov. (2014) *Adabiyot Ikkinchi Qism. Umumiy o‘rta ta’lim maktablarining 8-sinf uchun darslik-majmua*.［文学 第二巻 8 年生向け教科書］Toshkent: G‘afur G‘ulom nomidagi nashriyot-matbaa ijodiy uyi.

O‘zbek tilining ta’lim korpusi「ウズベク語教育用コーパス」(http://uzschoolcorpara.uz)［最終閲覧日: 2022/12/15］

The Function of the Particle =*chi* in Uzbek

Shinsuke HIDAKA
(JSPS Research Fellow / Niigata University)

Keywords: Turkic, Uzbek, proposition, particle

This study examines the particle =*chi* in Uzbek (Turkic, Southeastern branch). Previous studies have argued that =*chi* has many usages, such as “emphasis,” “imperative,” “threat” and “question.” However, the descriptions of this particle in previous studies are questionable because, examples including =*chi* in previous studies seem to express “imperative” and “threat” without =*chi*. In the examples of “emphasis” and “imperative,” we cannot understand what =*chi* emphasizes, and the differences are between =*chi* and =*mi* in typical yes/no questions. These problems arise because previous studies do not consider the context or situation of utterance. To solve the above problems, this study clarifies the function of =*chi* based on examinations using a corpus and with the cooperation of an informant. Subsequently, this study revealed that =*chi* marks a relation to a presupposition. In addition, =*chi* is used for requests along with a presupposition, subject marking and contrastive questions. In requests along with a presupposition, a speaker orders an action along with a presupposition, which the sentence including =*chi* expresses, and the intonation at the end of the sentence is falling. In subject marking, =*chi* is added to the item succeeding a presupposition or the item in a presupposition, then =*chi* introduces the item into the discourse. In a contrastive question, =*chi* is added to the contrastive item to a presupposition, only the contrastive item appears in a sentence including =*chi,* and the intonation of the end of the sentence is a rise. In conclusion, the particle =*chi* expresses a succeeding or contrastive relation to a presupposition.

（ひだか・しんすけ　shidaka@human.niigata-u.ac.jp）